

## 1 1俵でも多くの出荷契約→有利販売→農業者所得増大 営農部

4月17日から1俵でも多くの令和2年産米集荷を呼びかけながら出荷契約受付が約1か月間行いました。

職員は各地区集会所や家々を巡回して、出荷契約数量・出荷契約仮渡金の有無などを聞き取りながら出荷契約を交わしました。

販売課淡路主査は「各地区に出向き出荷契約を行うことで、1俵でも多くご契約いただき有利販売に結びつけて、農業者所得向上に努めたい。」と意気込みます。

今年度計画契約数量は1,419万t（前年度実績対比102%増）を目指しており、各営農センターにて随時受け付けております。1俵でも多くのご契約をお願い致します。



米出荷契約をかわす生産者とJA職員



元気いっぱい自己紹介する新採用職員

## 元気ハツラツ「初志貫徹」

人事・審査課

4月末に開催された第1回理事会の開会前、今年度の新採用職員5人は理事・監事の前で、元気ハツラツ自己紹介しました。

採用初日のオリエンテーション時に「初志」と題して個々の目標が記載された色紙を用いて行われた自己紹介では、二ツ井支店配属の柴田あゆりさんは「誠心誠意、親身になって対応するよう常に心がけたい。」と抱負を語りました。

自己紹介を終え会場を退出した5人からは緊張がほぐれた笑顔がこぼれていました。

長内人事・審査課長は「採用初日に誓った「初志」を貫いてもらいたい。」と5人の今後の奮闘に期待していました。

## 農業に関心を。管内小学校に教材本贈呈 食農教育・よい食プロジェクト



高橋誠也能代市教育長へ贈呈



浅利美津子藤里町教育長へ贈呈

4月23日くらしと農業の関わり、農畜産物の生産をテーマとした『農業とわたしたちの暮らし』の教材本とDVDを能代市教育委員会と藤里町教育委員会を訪問し佐藤組合長と齊藤経済部長が両教育長に贈呈しました。

教材本の提供は2008年から行われており今年で13回目。

齊藤経済部長は「インターネットの普及で、食べたい物が簡単に手に入る時代。地域の基幹産業である「農業」について学んでもらい、少しでも「食」と「農業」の関係性に興味を持ってもらいたい。」と教材本を活用した学習に期待します。

当組合では食農教育の一環として、学校農園活動や、田植え、収穫体験授業など、将来の地域を担う子どもたちに農業を感じる機会作りを積極的に推進します。



「食」と「農業」と「環境」のかかわりが写真やイラストを使ってわかりやすく説明